



CHAPTER 1

Cisco Prime Collaboration Manager の概要

Cisco Prime Collaboration Manager (Prime CM) は、Cisco TelePresence セッションのモニタ、トラブルシューティング、およびレポートを支援するビデオ サービス保証および管理システムです。サービスおよびネットワーク オペレータに、すべての Cisco TelePresence (パーソナル ビデオ/マス エンドポイントなど) セッションを統合したリアルタイムのビューを提供します。

Prime CM では、各セッションの関連するメディア パスをただちに表示し、問題の原因の切り分けを行います。Mediatrace 対応デバイスがネットワークに導入されている場合、Prime CM は、ネットワーク パスを可視化し、ビデオ フロー統計情報の詳細を示します。

Prime CM :

- タイムリーなエンドツーエンド可視性をサポートし、セッション、エンドポイントおよびネットワークのビデオ関連の問題の切り分けを行います。
- サービスに影響を与える問題をトラブルシューティングし回復するまでの時間を短縮します。
- 重要な障害およびパフォーマンスの統計情報とともに、メディア パスの詳細な分析情報を提供します。これにより、サービス低下の原因となっているネットワーク デバイスを特定できます。
- Cisco TelePresence エンドポイントおよびサービスとネットワーク インフラストラクチャ デバイスの包括的なインベントリ、健全性、ステータスを利用して、大規模な導入の検証を行います。
- オペレータが使用率および問題履歴を追跡できるレポートを配信します。

Cisco TelePresence エンドポイント

Prime CM は、Cisco TelePresence System (500、1000、3000)、TX9000 シリーズ、Cisco C シリーズ、Ex シリーズ、Cisco MX シリーズ、Cisco MXP シリーズ、Cisco Profile、Cisco TelePresence SX20 Quick Set などの TelePresence エンドポイントをサポートします。これらのエンドポイントでは、セッション統計、セッション情報、トラブルシューティングなどのリアルタイム モニタリング情報が使用できます。

パーソナル ビデオ/マス エンドポイント

Prime CM は、Cisco IP phones (89xx、99xx)、Cisco Cius、Cisco TelePresence Movi、Cisco IP Video Phone E20、Polycom HDX、VSX などのパーソナル ビデオ/マス エンドポイントをサポートします。セッション統計やセッション情報などのリアルタイム モニタリング情報は、上記のエンドポイントでは利用できません (Cisco IP Video Phone E20 は除く)。

ビデオ コラボレーション ダッシュボード

Prime CM ビデオ コラボレーション ダッシュボード（サマリー、エンドポイント、インフラストラクチャ）を使用すると、ご使用のビデオ コラボレーション ネットワークをエンドツーエンドでモニタリングできるようになります。次の項目に関して簡単に要約しています。

- セッション モニタリング：日、週、および月ごとのセッション数です。セッションの構造とタイプも確認できます。
- エンドポイント モニタリング：日、週、および月ごとに最も使用率が高いエンドポイント/エンドポイント モデル、最も使用率が低いエンドポイント/エンドポイント モデル、および上位 10 個の no-show エンドポイントです。
- 障害管理：日、週、および月ごとのネットワークで最もアラームが多いエンドポイントおよび上位 10 個のアラーム タイプです。また、アラームが設定されたエンドポイントの数とアラームが設定されていないエンドポイントの数を表示できます。
- エンドポイント タイプのインベントリ。
- インフラストラクチャ デバイスのモニタリング：管理デバイス、コールデバイス、セッション制御デバイスの健全性とステータス。また、アラームが設定されたインフラストラクチャ デバイスの数とアラームが設定されていないインフラストラクチャ デバイスの数を表示できます。
- ビデオ コラボレーション リソース（会議デバイス、コールプロセッサ、アプリケーション マネージャ、ビデオ ポートなど）の使用率統計。

サマリー、エンドポイント、インフラストラクチャ ダッシュボードに表示されるさまざまなフィールドについては、「[ビデオ コラボレーション ダッシュボードの概要](#)」(P.2-1) を参照してください。

デバイス インベントリ管理

ビデオ コラボレーション ネットワークの一部である、すべてのビデオ コラボレーション エンドポイント、マルチポイント スイッチ、アプリケーション マネージャ、コール プロセッサ、ルータ、スイッチを検出および管理できます。

シングル IP アドレスまたは複数の IP アドレスのいずれかを指定して、検出をスケジュールできます。Prime CM は、アプリケーション マネージャで管理されるすべてのビデオ エンドポイントおよびコールおよびセッション制御デバイスを検出します。検出の一部として、デバイス インターフェイスおよびペリフェラルの詳細も取得され、Prime CM データベースに保存されます。

検出が完了したら、次のデバイス管理タスクを実行できます。

- デバイスを、事前定義のグループとユーザ定義のグループにグループ化します。
- 管理対象デバイスの可視性設定を編集します。
- デバイスのイベント設定をカスタマイズします。
- 必要な場合はデバイスを再検出します。
- 管理対象デバイスのインベントリを更新します。
- 管理対象デバイスの管理を一時停止およびレジュームします。
- グループからデバイスを追加または削除します。
- デバイス アクセス クレデンシャルを管理します。
- 管理対象エンドポイントおよびサービス インフラストラクチャ デバイス インベントリをエクスポートします。

エンドポイント インベントリ データの収集方法については、「[デバイスの検出](#)」(P.12-1) を参照してください。Prime CM により収集されるインベントリ データについては、「[インベントリの管理](#)」(P.14-1) を参照してください。

セッション モニタリング

ビデオ コラボレーション サービスのオペレータは、企業のすべてのビデオ セッションについて、ネットワークにおけるサービス低下の原因を迅速に特定する必要があります。Prime CM は、エンドポイント、サービス インフラストラクチャ、およびネットワーク 関連問題の具体的な情報など、エンドツーエンド メディア パスを詳細に分析します。

Prime CM により、すべてのポイントツーポイント、マルチサイト、およびマルチポイント ビデオ コラボレーション セッションをモニタできます。これらのセッションは、次のいずれかのステータスのアドホック、スタティックまたはスケジュール済みセッションです。

- **In-progress** : 進行中のセッション。
- **Scheduled** : まだ開始していないセッション。Prime CM は、セッションのスケジュール済み開始時刻および終了時刻を示します。
- **Completed** : 完了したセッション。
- **No Show** : 終了時間までセッションへの参加者がいないスケジュール済みセッション。

Prime CM は、定期的に次の情報をインポートします。

- スケジュール済みセッションの管理アプリケーション (CTS-Manager および Cisco TMS) および会議デバイス (CTMS、Cisco MCU、および Cisco TS) です。
- エンドポイントの登録およびコール ステータスのコールおよびセッション制御デバイス (Cisco Unified CM および Cisco VCS) です。

Prime CM は、複数のコールおよびセッション制御クラスタを管理します。クラスタ内およびクラスタ間のセッション (クラスタ内およびクラスタ間セッション) をモニタします。クラスタ ID またはクラスタ名が一意になるようにします。

次のセッション管理タスクを実行できます。

- セッション トポロジと参加者ステータスを表示します。セッション トポロジには、ビデオ コラボレーション エンドポイントまたはコールおよびセッション制御デバイス、あるいはこれら両方の詳細情報が含まれます。
- 進行中のセッションの一部であるエンドポイントの **Quality of Service** をモニタします。
- アプリケーション マネージャおよびマルチポイント スイッチからのセッションのオンデマンド インポート。スケジュール済みセッションの最新の詳細を取得します。
- 進行中のセッションおよび過去のセッションのセッション統計 (ビデオおよびオーディオ) を表示します。
- ペリフェラル、セッションおよびインベントリなど、エンドポイント詳細を表示します。
- セッションに関連付けられているアラームを表示します。
- 進行中のセッションをトラブルシューティングします。
- セッションを監視リストに追加します。Prime CM は、セッションが監視リストに追加されると、自動的にトラブルシューティングを実行します。

最新のセッション詳細を表示する方法、セッション障害をモニタする方法、セッションをトラブルシューティングする方法については、「[セッションのモニタリング](#)」(P.15-1) を参照してください。

エンドポイント モニタリング

Prime CM では、ビデオ コラボレーション エンドポイント、会議デバイス、管理アプリケーション、コールおよびセッション制御をモニタできます。Prime CM は、管理対象エンドポイントに対して次の情報を表示します。

- スケジュール済みセッション。

- アラーム（重大、やや重大、比較的重大でない）。
- ステータス（使用中、未使用）。
- システム詳細（ソフトウェア バージョン、CPU 使用率、物理メモリ使用率など）。
- ペリフェラル詳細（IP Phone、カメラ、マイクなど）。

Prime CM サーバにより収集されるエンドポイント データについては、「[エンドポイントのモニタリング](#)」(P.16-1) を参照してください。

障害管理

Prime CM は、ほぼリアルタイムで、迅速かつ正確な障害検出を実現します。Prime CM は、次の障害情報を検出および保持します。

- アクティブ モニタリング：管理対象デバイスの継続的なポーリング中、Prime CM は、障害または不正なネットワーク シナリオを示す、動作ステータスの変化を検出します。
- パッシブ モニタリング：さまざまな未承諾のイベントおよび通知を受け取ります。たとえば、管理対象デバイスから SNMP トラップおよび syslog を受け取ります。

Prime CM は、イベント通知を受け取ると、ポーリングをトリガーし、新しいアラームを作成、または既存のアラームを更新します。すべてのイベントおよびアラームには、重大度（重大、やや重大、比較的重大ではないなど）が関連付けられています。

Prime CM では、自分にとり重要でないイベントを無効にし、そのイベント重大度を変更することでイベント モニタリングをカスタマイズできます。

Prime CM による障害のモニタ方法については、「[障害管理について](#)」(P.18-1) を参照してください。

セッションのトラブルシューティング

Prime CM では、進行中のセッションをトラブルシューティングできます。これはユーザ設定に基づいてトリガーされます。たとえば、やや重大なアラーム（パケット損失、ジッター、遅延）が報告された場合、またはセッションが監視リストに追加された場合、自動トラブルシューティングをトリガーできます。

ポイントツーポイントおよびマルチサイト セッションでは、トラブルシューティングはエンドポイント間で実行されます。マルチポイントセッションでは、トラブルシューティングは、アクティブ エンドポイントおよび会議デバイス間で実行されます。トラブルシューティングでは Cisco MSE および Cisco TS がサポートされます。Cisco MCU はサポートされていません。

Prime CM は、トラブルシューティング ワークフロー中、エンドポイント間の完全なパス トレースを検出します。また、Video SLA Assessment Agent (VSAA) を使用して、Cisco Video システムまたは TelePresence システムを導入するネットワークの準備検査を容易にする機能も用意されています。

セッションのトラブルシューティング データは、Prime CM データベースで維持されます。このデータはエクスポートできます。

Cisco メディアネットによるトラブルシューティング

Prime CM は Cisco メディアネットを使用して、拡張パス計算、統計情報収集、および合成トラフィックの生成を行います。ネットワーク デバイスが Mediatrace 対応の場合、Prime CM は次を提供します。

- Mediatrace を使用したビデオ パスに加えて詳細なフロー関連情報。
- Performance Monitor を使用したネットワーク ノードのすべてのトラフィックのスナップショットビュー。
- ネットワーク デバイスからの合成ビデオ トラフィックの開始機能。IP サービス レベル契約 (IP SLA) ビデオ操作を使用してネットワーク上のビデオ パフォーマンスを評価します。

セッションのトラブルシューティングを行いながら、Cisco Prime Network Analysis Module (NAM) および Cisco Prime LAN Management Solutions (LMS) アプリケーションを相互起動して、エンドポイント間で接続されているネットワーク デバイスの問題をさらに詳しく分析できます。

セッションおよびネットワークのトラブルシューティング方法については、「[セッションのトラブルシューティング](#)」(P.23-1) を参照してください。

レポート

Prime CM には定義済みレポートと、カスタマイズ可能なレポートが用意されています。これらのレポートにより、サービス管理者がそのビデオ コラボレーションの導入の際に、エンドポイント使用率、会議デバイス使用率、すべてのセッションとセッションの詳細、管理対象デバイスと非管理対象デバイス、`no show` エンドポイントを迅速に表示することができます。これらのレポートは、ビデオ コラボレーション リソースを効果的に割り当て、管理するために役立ちます。

レポートを生成する方法については、「[レポートの概要](#)」(P.17-1) を参照してください。

主な機能の利点

次の表に、Prime CM の主な機能の詳細を示します。

機能	動作	利点
ビデオ コラボレーション サマリー、 エンドポイント、インフラストラク チャ ダッシュボード	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに影響するメトリックの要約 (使用率、問題領域)。 ひと目で確認できる、すべてのビデオ コラボレーション リソースの健全性と使用率のステータス。 日次、週次、および月次ビュー。 データを CSV 形式および PDF 形式でのエクスポート機能。 カスタマイズ可能なダッシュボード 	<ul style="list-style-type: none"> 進行中のセッション、エンドポイント、インフラストラクチャ デバイスに影響を与える問題の概要を一式入手するのに必要な時間と労力を節約します。 エンドポイント モデルと会議デバイス使用率における傾向を表示することによって、最適なりソースの割り当てを支援します。 システム コンポーネントの低下を瞬時に可視化することにより、システム稼働時間の向上を支援します。
セッション モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 進行中のセッション、最近完了したセッション、およびスケジュール済みセッション、no show セッションのトポロジとステータスを可視化します。 Cisco TelePresence セッション (スケジュール、アドホック、スタティック) およびエンドポイントの重要な傷害および品質メトリックを提供します。 [360° Session View] の提供: エンドポイント、インフラストラクチャ デバイス、アラーム、およびコール レコードに関連するデータの完全なビューです。 管理対象エンドポイントのリアルタイムな可視化を実現します。これにより、エンドポイント動作のモニタリング レベルを決定できます。 グループに基づいたセッションを選択する機能を提供します。 時間範囲に対応するセッションの詳細をモニタリングする機能を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> セッション モニタリングおよびトラブルシューティングの運用コストを削減します。 デバイス (グループ) のタイプに基づいてセッションをモニタリングできます。 非常に重要なセッションおよび非常に重要な問題を抱えているセッションを特定します。 問題がエンドポイントにあるか、ネットワークにあるかを判別します。 [Troubleshooting] ページ、[Endpoint Monitoring] ページ、[Alarm Browser] を起動し、セッションを監視リストに追加できるようになります。
エンドポイントおよびネットワーク の診断	<ul style="list-style-type: none"> エンドポイント、サービス インフラストラクチャ、ネットワーク デバイスの詳細を含むエンドツーエンド ビューを生成し、欠陥の可能性がある場所を強調表示します。 ネットワーク パスを可視化します。Mediatrace 対応デバイスがネットワークに導入されている場合、ビデオ フロー統計情報を詳細に示します。 	<ul style="list-style-type: none"> トラブルシューティングを簡素化し、ビデオ品質に影響を与える根本的な原因を識別する時間を短縮します。 ビデオ関連問題の平均修復時間を短縮します。 問題の根本的な原因と推奨する解決策を提供します。

機能	動作	利点
エンドポイント モニタリング ダッシュボード	エンドポイントがセッションにあるかどうかにかかわらず、Cisco TelePresence エンドポイントのアラーム、健全性の統計情報、およびスケジューリング ステータスのトラッキングを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> 最も重要な問題があるのはどのエンドポイントかを評価するのに必要な時間を短縮します。 エンドポイント スケジューリング ステータスは、サービス オペレータが、解決する問題の優先順位を設定する場合に役立ちます。
インベントリ	<ul style="list-style-type: none"> 導入されているすべての Cisco TelePresence エンドポイントや関連するサービスおよびネットワーク インフラストラクチャ デバイスを検出してインベントリ作成する場合に役立ちます。また、すべてのデバイスのソフトウェアバージョンおよびステータスの識別に役に立ちます。 デバイス タイプに基づいたデバイスのグループ化ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア アップグレードの検証に必要な運営チーム リソースを軽減します。 大規模なビデオ コラボレーション導入で、素早い管理性および包括的なインベントリ詳細を提供します。 特定のタイプのデバイスについて、セッションの詳細を表示するために必要な時間を短縮します。 グループのカスタマイズと作成、および対象としたい特定のデバイスのモニタリングが可能になります。
レポート	<ul style="list-style-type: none"> Cisco TelePresence の導入に関する重要な情報を表示します。 トラブルシューティング時のエンドポイントおよびネットワーク診断に関するレポートを作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> エンドポイント使用率履歴の詳細なアセスメントに基づく新しいエンドポイントの導入計画を改善できます。 将来の導入について最適な場所とデバイス タイプを判断するのに役立ちます。 将来の障害を防ぐためのデータおよび対応する傾向の分析に役に立ちます。 特定の Cisco TelePresence エンドポイントおよびインフラストラクチャ システムの ROI を簡単に計算するのに役立ちます。
障害管理	<ul style="list-style-type: none"> エンドポイントおよびネットワーク レベルでセッションに関する重要な障害メトリックを提供します。 パケット損失、ジッター、遅延、CPU、およびメモリ使用状況のしきい値をカスタマイズできます。 モニタリング イベントおよびイベント重大度をカスタマイズできます。 サービスに影響する停止の通知を設定できます。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題が発生した場合に、エンドユーザーに予防的かつタイムリーなサポートを提供するのに役立ちます。 特定のアラーム検出および通知を管理できます。

本リリースの新機能

Cisco Prime Collaboration Manager 1.2:

- エンドツーエンドの可視性、リアルタイム トラブルシューティング、Cisco TelePresence および パーソナル ビデオ/マス エンドポイント用のインベントリ サポートを提供します。
「デバイスの検出」(P.12-1) と 「インベントリの管理」(P.14-1) を参照してください。
- エンドポイント、インフラストラクチャ デバイス、アラーム、コール レコードに関連するデータの [360° Session View] を提供します。
「360° Session View」(P.15-13) を参照してください。
- VSA エージェントを使用して、Cisco Video システムまたは TelePresence システムを導入するためのネットワークの準備検査を容易にする機能を提供します。
「メディア パスの分析」(P.24-6) を参照してください。
- すべてのページ ([Session Monitoring] ページ、[Endpoint Monitoring] ページ、[Device Inventory] ページ、[Alarm Browser] および [Event Browser]) 上で、事前定義グループおよびユーザ定義グループのセットを提供し、単一のデバイスやデバイスのグループへのアクセスと管理を容易にします。
「デバイス グループの管理」(P.13-1) を参照してください。
- エンドポイントの可視性をカスタマイズでき、エンドポイントのモニタリング レベル動作を決定できます。
「エンドポイントのリアルタイム可視性」(P.15-12) を参照してください。
- トラブルシューティングで特定されたコール品質の問題の根本原因を見つけ、シスコが推奨するベストプラクティスと、ユーザが設定した内容の相違点を含むレポートを表示することができます。
「診断」(P.25-13) を参照してください。
- トラブルシューティング Mediatrace 統計情報のアプリケーション診断をサポートし、根本原因と推奨される解決策を表示します。
「Mediatrace 診断」(P.25-10) を参照してください。
- カスタマイズ可能なダッシュボード、新規ダッシュボード (エンドポイントとインフラストラクチャ)、および新規ダッシュレットを提供し、エンドポイントとインフラストラクチャ デバイスの健全性と使用率のステータスがひと目で確認できるようにします。
表 2-1 と 「ダッシュボードのカスタマイズ」(P.2-12) を参照してください。
- カスタマイズと、異なる重大度レベルに対応する複数のしきい値の設定が可能です。
「イベント管理のカスタマイズ」(P.19-1) を参照してください。
- 最大ジッター、最大パケット損失、最大遅延など最大および平均の診断値を含む過去のセッション統計情報をサポートします。
「セッションのモニタリング」(P.15-1) を参照してください。
- 複数の日数にわたるセッションの詳細表示をサポートします。
「セッションのモニタリング」(P.15-1) を参照してください。
- [Video Collaboration dashboard]、[Device Inventory]、[Endpoint Monitoring] ページからすべての管理対象デバイスを相互起動できます。
「ビデオ コラボレーション ダッシュボードの概要」(P.2-1) を参照してください。
- ジョブのモニタリングと管理を行うため、スケジューリングおよびその他のオプションを提供します。

- 「ジョブのスケジューリング」(P.9-2) を参照してください。
- Performance Monitor を使用して、ネットワーク ノードのフロー関連統計情報に対する medianet 対応ネットワークの可視性をさらに深く追求します。
「セッションのトラブルシューティング」(P.23-1) を参照してください。
 - クレデンシャルが正しくないためにデバイス検出に失敗した場合、クレデンシャルの確認をサポートします。
「クレデンシャルの管理」(P.11-3) を参照してください。
 - CTS-Manager または Cisco TMS のみに対するクラスタまたは複数サーバの管理をサポートし、セッションのモニタリングを中断せずに行うことができます。
「クレデンシャルの管理」(P.11-3) を参照してください。
 - フィルタリング可能で、そのまま使えるレポートを新たに提供し、さらにスケジューリングを含むレポートのフレームワークを提供します。
「スタティック レポートの概要」(P.17-9)、「[Conferencing Device Utilization Report](#)」(P.17-5)、および「[Session Detail Report](#)」(P.17-8) を参照してください。
 - Prime CM 1.2 の導入に必要な新規のライセンス情報を提供します。
「ライセンスの管理」(P.5-1) を参照してください。
 - トラブルシューティング IP SLA 統計のアプリケーション診断をサポートし、根本原因と推奨される解決策を表示します。
「IP SLA ビデオ動作診断」(P.24-4) を参照してください。
 - Internet Explorer および他のバージョンの FireFox ブラウザをサポートします。
『[Cisco Prime Collaboration Manager 1.2 Quick Start Guide](#)』を参照してください。

